北海道新聞　令和2年2月8日（朝刊/16面）

海外留学 奨励金を授与

小樽商大 5年で計260人に

和田健夫学長から留学奨励金の目録を受け取る代表の伊藤那菜さん（中央）

小樽商大の卒業生で、ソフトウエア大手「日本オラクル」の元会長佐野力さんの寄付金を元にした海外留学奨励金の本年度の授与式が6日、同大で行われた。同制度は2015年度に始まり、奨励金を受けて留学を実現する学生は今回で計260人となった。

同制度では学生は5万円の自己負担のみで、4週間ほどの短期留学ができる。留学は春と夏の長期休暇中の年2回機会があり、昨夏はニュージーランドとマレーシアへ計29人、今春はカナダとオーストラリアへ計31人が留学する。

授与式では、和田健夫学長が「若いうちに異文化を経験し成長の糧にして」と話し、代表者2人に目録を手渡した。カナダ・カルガリーに留学する伊藤那菜さん（1年）は「人として成長したい」と話した。

（徳留弥生）

北海道新聞　令和2年2月9日（朝刊/30面）

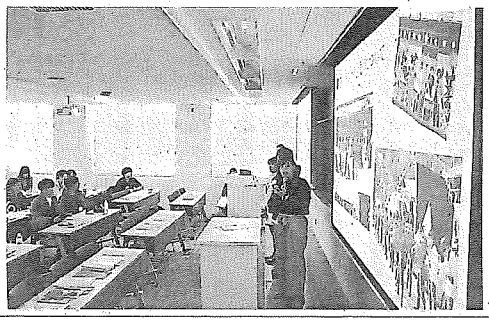
札幌圏の10大学 学祭の魅力紹介

初の交流会

さまざまな大学の学生が大学祭について情報交換する初の交流会が8日、札幌市手稲区の北海道科学大で開かれた。札幌や近郊の10大学の学生約40人が集まり、特色を生かしたユニークな取り組みを報告し合った＝写真＝。

道科学大の大学祭実行委員会が「それぞれの大学祭の魅力や事情を互いに知り、今後に生かしたい」と企画した。

坂の上にあることで知られる小樽商科大は、敷地内の坂を利用して流しそうめんを行い、地元住民に愛されるイベントになっていると紹介。酪農学園大（江別）は、来場者が牛へのエサやりや搾乳体験を楽しむことができ、人気を集めていると伝えた。



交流会の運営に当たった道科学大2年の鎌田康平さん(20)は「やってみたいと思う面白い取り組みがたくさんあった。これからも続けたい」と話していた。

（五十嵐俊介）

北海道新聞　令和2年2月9日（朝刊/3面）

小樽が挑む 日本遺産3件目

北海道の「心臓」と呼ばれたまち

【小樽】小樽市が今年、3件目の日本遺産認定に挑んでいる。既に道内外の「北前船寄港地」と、空知の炭鉱、室蘭の鉄鋼、小樽の港から成る「炭鉄港」の構成自治体の一員として日本遺産に認定されており、今回は市単独認定を目指す。自治体単独を含め3件が認定されれば岡山県倉敷市、広島県尾道市、山形県鶴岡市に続く国内4市目で、道内初。ただ文化庁に申請した構成文化財候補は認定済み5件が重複している上、現在の遺産活用も十分ではないとの指摘もあり、実現への道程は険しそうだ。（渡辺佐保子）

初の単独 魅力発信狙う

「北海道の『心臓』と呼ばれたまち・小樽」。1月に小樽市で開かれた市日本遺産推進協議会で、単独認定に向けた申請タイトルが決まった。

単独認定を目指すのは、歴史遺産が集積する小樽の魅力を効果的に発信して、観光振興などにつなげる狙いがある。鉄路などで集まった物資が、小樽港を通じて本州に運ばれた歴史を「心臓が血液を循環させる」（同協議会）様子になぞらえた。小樽ゆかりの作家小林多喜二が昭和初期の随筆で表現したことにも由来。

同市が日本遺産に関心を示したのは2015年秋。制度は同年、文化庁が新設。地域の歴史的物語性を重視するとの趣旨を知った市内の文化関係者から、運河や倉庫群など近代化の歴史を色濃く現す施設が残る「小樽こそ申請すべきだ」との声が出て準備を始めた。

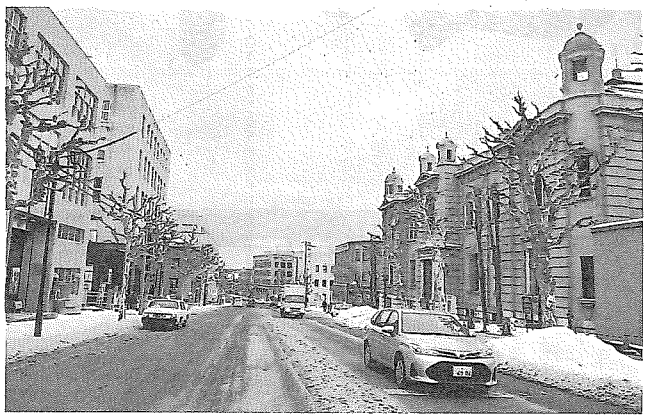
当時は「市の文化財を活用したまちづくりへの関心は薄かった」（市幹部OB）。市内の国や道、市の指定文化財は旧日本郵船小樽支店（国の重要文化財）など15件で、倉敷市の163件の1割にも満たない。

そんな中、小樽には18年以降、複数自治体共同での日本遺産認定が転がり込む。全国45市町の「北前船寄港地」、道内12市町の「炭鉄港」。旧産炭地を抱え、PRに前向きな空知管内と比べると、認定後の活用策が十分とは言い難く、市民にも浸透していない。市内の主婦（74）は「小樽市に日本遺産があるなんて知らなかった」と言う。

市は今年1月に行った単独申請で、構成文化財候補に37件を盛り込んだ。うち「色内銀行街」「小樽港北防波堤」を含め5件は炭鉄港などで認定済み。重複とみられれば、不利に働きかねない。

日本遺産は文化庁が目指す100件程度に対し83件が認定。道内では今年、根室管内標津町など1市3町がサケ漁、札幌市など30市町が道内の食産業をテーマに申請。全国では約70件が申請したとみられる。

「心臓」のアイデアを出した小樽商大の高野宏康学術研究員は言う。「北海道の近代史を心臓として支えた小樽の単独認定は、北海道発展の歴史が認められたことにもなる。ハードルが高いが、ぜひ実現させたい」



旧日銀小樽支店（右）など往時の繁栄を伝える「色内銀行街」。小樽市単独での日本遺産認定の構成文化財候補の一つだ

アングル

日本遺産　文化庁が地域の風土に根ざした文化の「ストーリー」を認定する制度。道内関連では、檜山管内江差町の「ニシンの繁栄が息づく町」（2017年）、上川管内上川町を中心とする「カムイと共に生きる上川アイヌ」（18年）など計4件が認定されている。今年の認定結果は5月中にも出る見込み。